

▼ゼンタコートカプセル [内]

【重要度】 【一般製剤名】 プデソニド budesonide 【分類】 クロウン病治療薬 [ステロイド剤]

【単位】 ▼3mg/cap

【常用量】 9mg/日 ■投与開始8週間を目安に本剤の必要性を検討し漫然と投与を継続しない ■中止時には漸減

【用法】 1日1回, 朝

【透析患者への投与方法】 常用量 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量 (1)

【その他の報告】 腎機能は PK に影響しないと考えられる (Edsbacker S, et al: Clin Pharmacokinet 43: 803-21, 2004 PMID: 15355126)

【特徴】 回腸から回盲部及び上行結腸に病変が存在する活動性クローン病に適用される経口ステロイド剤。回腸及び上行結腸以外の病変に対する有効性は確立していない。腸溶性と徐放性の顆粒を含有するカプセル剤。

【主な副作用・毒性】 さ瘡, クッシング様症状, 発疹, 便秘, 肝機能異常, 神経過敏, 不眠, 振戦, 霧視, 動悸, 筋痙攣, 低 K 血症など

【安全性に関する情報】 9mg 投与で血漿コルチゾールの 24hrAUC が 50%抑制される (Lundin PD, et al: Aliment Pharmacol Ther 17: 85-92, 2003 PMID: 12492736) ステロイド性副作用はプレドニゾンより軽度 (McKeage K, et al: Drugs 62: 2263-82, 2002 PMID: 12381231) 肝障害と薬物相互作用に注意 (Hofer KN: Ann Pharmacother 37: 1457-64, 2003 PMID: 14519035)

【吸収】 $k_a=0.106/hr$ (1) 食事の影響はわずか (Lundin P, et al: Aliment Pharmacol Ther 15: 45-51, 2001 PMID: 11136277)

【F】 10~20% [腸溶性徐放剤] (1) 初回通過効果を受け, 9~21% (Edsbacker S, et al: Clin Pharmacokinet 43: 803-21, 2004 PMID: 15355126)

【 t_{max}] 6hr (1)

【代謝】 CYP3A4 で肝代謝を受け, グルココルチコイド活性の低い代謝物に代謝 (1) 主代謝物は 6β -ヒドロキシプデソニド, 16α -ヒドロキシプレドニゾン [グルココルチコイド活性は未変化体の 1%以下] (1)

【排泄】 尿中回収率 57% [iv, 96hr まで] (1)

【CL】 1.24L/min [iv] (1)

【 $t_{1/2}$] 10hr (1) $k_e=0.287/hr$ (1)

【蛋白結合率】 90% (1)

【Vd/F】 1500~3800L/man (1)

【MW】 430.53

【透析性】 資料なし (1) 除去されないと思われる (5)

【O/W 係数】 500~600 [1-オクタノール/水系] (1)

【相互作用】 CYP3A4 関連の相互作用に注意 (1)

【肝障害患者における報告】 肝硬変時の AUC は 2.5 倍 (Edsbacker S, et al: Clin Pharmacokinet 43: 803-21, 2004 PMID: 15355126)

【小児における報告】 PK は成人と同じであるが, 副腎機能抑制には特に注意する (Dilger K, et al: Aliment Pharmacol Ther 23: 387-96, 2006 PMID: 16422998)

【主な臨床報告】

【更新日】 20161224

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。